

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな		
所在地	長崎市愛宕4丁目11番1号		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の母体である病院が隣接していることにより、医療面の協力体制が整っています。併設施設の管理栄養士や理学療法士など他職種との専門職の協力のもと、栄養面や生活リハビリなど、利用者の状態の変化に沿って、相談したり支援することができます。また、繁華街に近い為、利用者の要望に沿って、個別の外出支援を行ったり、地域の方の協力を得、屋上ベランダで季節を楽しみながら園芸活動などを行なっています。その他、地域のグループホームと花火大会やおやつバイキングなどの相互訪問を行ったり、自治会の方々と一緒に秋祭りや忘年会などの交流を図っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成25年2月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は繁華街にほど近い場所に立地しているため利便性がよく、利用者の要望に応じて日常的な買い物や散歩などの外出支援が行われている。母体となる医療法人の病院等が隣接する環境にあり医療面や栄養管理面の協力体制が整っており、利用者や家族に安心感を与えている。理念を職員全員で考え作り直した事で、日々のケアでも利用者本位や地域との協力を考え行動するように繋がっている。利用者の居室も家具の配置・飾り付けも利用者や家族の意向を取り入れ、一人ひとりの個性が見えるように工夫されている。事業所と地域は園芸活動や忘年会・災害訓練等行事への参加や地域への祭りや介護に関する研修会開催する事で交流・協力関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は職員皆でつくり、理念に沿って、地域の中でその人らしい生活を支えるという観点から、地域の方達との交流を進めている。今年度は、地域の他のグループホームとの交流の機会を増やし、今後の事についても話し合っている。	介護理念は職員全員で考え『私達は、この地域の中で、ご家族と共に、あなたが「あなたらしく」穏やかな生活が送れるように努めます。』を作成している。管理者・職員共に地域との交流に努め利用者がその人らしくゆったりとした生活が送れるように日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパー等へ一緒に買い物に行っている。その他、婦人部の活動に参加したり、ベランダの植木の植え替えに協力をいただいたりしている。秋祭りには、ポスターやチラシの呼びかけにより、多くの地域住民の方達に参加していただいた。	事業所は、お盆には町内会婦人部の精霊船の飾り付けを手伝い、地域住民にベランダの植木植え替え作業に来てもらっており、双方向での協力体制が整っている。事業所秋祭りの支援や参加も受けている他、近隣への買い物や病院での受診時には、挨拶を交わす関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で話し合ったり、包括支援センターより依頼を受け、認知症サポート養成講座の一環として、施設見学をしてもらったりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回活動報告などを行ない、サービスの現状について地域の方やご家族の方の意見を伺ったりしてサービス向上に活かしている。	規程のメンバーで年6回開催している。会議では行事の予定や事故に関する報告後、行事の反省や改善案に関する意見交換が活発に行われ、新しい取り組みとして利用者・家族・地域の方との忘年会を企画し実行するなど、意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や行事への参加など、協力をいただいている。	利用者の申請手続きや介護制度改正時の問い合わせなど日常的に連絡している。また、事業所から利用者や事業所の近況報告を行ったり、年に1回介護相談員を受入れるなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内研修を行なっている。職員は身体拘束の弊害を理解しており、日頃から利用者の状態把握に努め、気持ちに沿ったケアを心掛けている。エレベーターは自由に乗降出来、玄関も日中は施錠していない。	年間計画により実施している研修で、身体拘束は年1回は必ず実施し、職員への周知が徹底されている。言葉による拘束についても、声の大きさを含めて職員間で取り組んでいる。また、廊下のコーナーにミラーを取付け、死角がないよう工夫し、見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行っている。ユニット会議で日頃の気付きを話し合ったり、他施設での虐待についての話を聞く度に、自分達の施設の振り返りを行なって、防止に努めている。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を基に施設内研修等で学ぶ機会を持っている。必要に応じて関係者と話し合い、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、理解していただけるよう努めている。利用者、ご家族の不安に配慮し、疑問点が浮上した場合には、いつでも説明を行なう旨伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設けているが、今まで一度も意見が入っていたことがない。ご家族から直接口頭で意見を聞くことはあり、話し合いを持って、誠意のある対応が出来るよう努めている。	利用者の要望等は話を聞くように心がけている。家族の意見・要望は来所時や電話等で聞く機会を作っている。運営推進会議で利用者・家族に対して事故対応に関する報告を行っており、意見交換では行事の内容等に関する要望等を受け運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内に気付き箱を設け、毎月のユニット会議で意見を出し合っている。また、職員アンケートを基に面談を行ない、意見や提案を聞きながら、改善に努めている。	日々の申し送りや月に1回のユニット会議にて職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、「気づき箱」を作り、改善提案やヒヤリハットの情報を聞き取りその対応を会議で話し合い、改善策を決める仕組みができています。勤務のシフトについては、本人の希望を聞き取り考慮して決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行ない、あおの実力に沿って、介護職員処遇改善給付金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、施設内研修にて職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等にて、他の事業所と交流を図り、相互訪問、勉強会などの活動を通じて取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会って、出来る限り話を聴く機会をつくり、信頼が得られるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話しを出来る限り聴き、困っていることや要望などを受け止め、信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への申し込み方法や、他のグループホームの空き状況の情報を伝えたり、料金等の説明を行ったり、他のサービスを含めた選択肢が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや洗濯たたみなど、一緒に行なっている。会話の時間を大事にし、時には人生の先輩として、悩みを相談したり、教をを乞うたりしている。また、一日一日を一緒に楽しく過ごせるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時には、一緒にゆっくり過ごしていただけるよう配慮し、ご本人の日頃の様子や変化等、出来るだけ詳しく伝えるようにしている。時には協力をお願いしたり、一緒にご本人を支えていく関係が築けるよう務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の情報を基に、支援出来るよう努めており、友人や知人の方の面会や電話などもあっている。また、外出にはご家族の協力を得たりして連携を図っている。	利用開始時に生活歴を聞き取り、馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう配慮している。買い物や病院への受診時に立ち寄る等の支援を行っている。友人や知人の他、教え子の訪問もある。年末には、年賀状を書く支援も行っている。親族が入所している他の施設を訪問する際に同行した事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課として、食事以外にも一緒に集う時間を設けている。共同で行える作業やレクリエーションを実施し、スタッフが一緒に入って、交流が持てるよう支援している。また、利用者同士の相互訪問や会話など、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後のご様子をご家族にお聞きしたり、また、ご本人が来られたりすることもあり、お話を伺ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話を聴きながら出来るだけ一人ひとりの希望や意向の把握が出来るよう努めている。困難な場合は、ご本人の表情や反応などを観察して推測したり、ご家族から話しを伺ったりしている。職員間で話し合ったり、情報の共有に努めている。	利用者一人ひとりの希望等は職員が日頃からゆっくり話をする時間をとる事で把握に努めている。毎日の申し送りやケア会議等で職員全員でその内容を共有するように努めている。利用者が意向表出の困難な場合は表情・顔色・動きの中から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に昔のことを書いていただいたり、お話を伺ったり、ご家族からもお話を伺ったりして、情報を収集し記録している。また、その情報が職員間で共有出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを詳細に行ない、申し送りノートを活用したりしながら、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めてアセスメントを行ない、毎月のカンファレンスで話し合っ、介護計画に反映している。また、担当者以外にも気があれば意見を出し合い、具体的なケア内容に繋げている。	利用者の記録や担当者の報告を取り入れ毎月カンファレンスを行っている。本人や家族の希望、医師、栄養士の意見を取り入れて、介護計画を作成した後本人・家族の同意を得ている。見直しは3ヶ月に1度行われ、利用者の状態変化によって都度見直しが行われている。ただし、介護計画が日々のケアにどう繋がるか解かりづらい記述となっている。	介護計画が日々のケアにどのように反映されているかを表すために、個人記録への記載内容や記録方法の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録しやすいように、ケース記録に計画書を見やすく綴じ、毎日の記録を行なっている。しかし、実践状況としてはわかりにくく、個々のスタッフによっても差がある。介護計画の見直しに役立つ記録としては不十分である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お話を聞きながら、出来る限り要望に沿った柔軟な対応が出来るよう努めている。また、色々な意見を出し合っ、その時々ニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	屋上ベランダの季節の植えなど自治会の方の協力をいただいている。精霊流しの地域のもやい船のお花作りには、利用者の方も毎年参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って、出来るだけ係りつけ医の継続を支援している。ご家族が付き添えない場合は、職員が付き添って主治医へ情報提供を行ない、受診結果をご家族に報告している。	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿って対応している。隣接して協力医療機関があり、本人・家族の納得を得てかかりつけ医を変更する事もある。家族が付き添えない場合は職員が受診支援を行っている。受診結果は互いに報告し情報を共有している。夜間急変時は協力医療機関との連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携している看護師や毎日の当直看護師に情報を伝えて相談したり、受診の指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は、病棟看護師やソーシャルワーカー等に情報を伝えたり、退院に向けて情報交換や主治医への相談を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針については、ご家族の方全てに説明し、同意を得ている。個別のケースごとに事業所で出来ることなどの説明を行ない、担当看護師も交えてご家族と話し合うようにしている。	重度化した場合の指針は契約時に説明を行っている。利用者の状態に応じて再度事業所で出来る事を説明し、医療機関の説明も受け家族との話し合いを行っている。現在、看取りの実績は無いが、職員からも対応出来ないか話が出ており今後の取組みについて検討している。	看取りについて取組みを検討しており、今後重度化が進み看取りの段階に入った時には、家族・事業所・医療機関等との連携が取れるような体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、順次消防の救急救命の研修を受けている。担当看護師が講師となり、定期的に施設内研修を実施して、実践に備えられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の避難訓練を行っており、地域の方にも参加してもらって協力体制をとっている。また、災害時は、施設建物の4階が、地域住民の避難場所として提供出来るようになっている。	年2回予定していたが、年1回の避難訓練となっている。地域住民が消火訓練に参加している。非常食・水等は関連する他の施設と一緒に備蓄されている。建物の3階にホームがあり、消防署からは屋上ベランダ等へ避難を行うよう指導を受けたが、安全面を考慮すると施設外への避難の検討が必要と思われる。	ホームは、建物の3階にあり屋上やベランダでは無く、安全に建物外へ避難する方法についての検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや口調には気を配って対応している。職員間で情報を共有しつつ、利用者の内緒にしてほしいという気持ちやプライバシーには十分配慮するよう心掛けている。	利用者への呼び名や話し方等は、利用者の人格を尊重する事を第一に考え、家族の意見を交えて決めている。個人記録は鍵のかかる棚に、利用者名が見えないように保管している。職員へは入社時に守秘義務の教育を行い誓約書を取っている。また、広報誌に掲載する写真についても家族から同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう際には、利用者の意思を必ず聞くようにしている。出来るだけ促しではなく、?の形で尋ねるようにしている。自己決定が困難な方には、体調や表情を見ながら働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間に合せて食事をずらしたり、出来るだけ一人ひとりのペースを大事に考え、ケアを行なっているが、希望に沿えない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には、自分で服を選んでもらっている。外出時には決められない利用者の相談にのったりして、おしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士や厨房の協力のもと、利用者一人ひとりの好みや力を活かせるように、状態に合せた食事を提供している。食事の準備や後片付けについては、利用者の状態の変化により、殆ど職員が行なっている。	一人ひとりの好みはアセスメントや、日々の喫食状況を見て把握している。ソフト食にも対応している。系列の施設にいる栄養士を含めた給食会議が開催され、情報を共有化している。行事や誕生日の食事にも対応している他、全国の郷土食を取り入れたり工夫が見られる。おやつはユニット毎の手作りである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供し、食事や水分摂取量を記録している。個別に医師や管理栄養士、ご家族に相談しながら、ソフト食・軟菜・刻みなど本人に合せた形態をにして、必要に応じて栄養ドリンク等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛けや見守りを行ったり、自分で出来ない方には、口腔ケアを実施している。義歯は洗浄剤を使用して清潔にしている。個別に歯科医に相談している。		

グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとにトイレ介助を行なっている。トイレ誘導が難しい方には、根気強くタイミングを見計らって実施している。出来るだけ利用者の状態に合せたケアが出来るよう努めている。	排泄水分チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立に向けた支援に役立っている。オムツからトイレでの排泄に改善された事例もある。薬に頼らない排泄に向けて補給する水分にもお茶や水以外に本人が好む飲料を取り入れる等の工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をたくさん摂ってもらうことを第一に、主治医に状態を報告し、相談しながら、利用者に合った薬を処方してもらっている。管理栄養士に相談し、食物繊維の多い飲み物やおやつを取り入れるなど便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を見て本人の希望に沿って実施しているが、職員不在時など安全に実施出来ない時は、希望に沿えないこともある。拒否気味の方は、無理に勧めず、様子を見ながら声掛けなど工夫して、必ず本人の意思を確認して実施している。	利用者が毎日入浴出来る様に準備し、少なくとも週に2回～3回は入浴出来る様に支援している。脱衣所の室温は暖房器具等を使用し、心地よく入浴が出来る様に配慮し、体調が悪い場合は、清拭や足浴・指浴で対応している。利用者の希望に直ぐに答えられない時は利用者の了解を得て時間を変更し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で動けない方は、体の負担や生活のリズムを考慮し、ソファや居室のベッドで休んでもらっている。日中の活性化を図り、寝具や居室の温度調節などで安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース記録にファイルして確認、把握出来るようにしている。受診や薬をセットする際は、説明書を見て薬剤師との情報交換も行なっている。症状に変化が見られる時はすぐ、主治医に報告し、対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸・裁縫・音楽・ドライブ・おしゃべりなど、個々の好まれることや楽しみ等について、職員間で情報を共有して、その時に必要な支援が行なえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った外出支援が出来るよう努めているが、時には希望に沿えないこともある。ご家族への協力をお願いしている。	買い物やドライブ等利用者の希望や状態に応じた支援に努めている。車両が準備出来ない場合は本人・家族の思いを聞き、タクシー利用の外出も支援している。休日は家族と外出する利用者もいる。また、屋上ベランダでゆっくり過ごし、できるだけ外気に触れるよう支援している。	



グループホームすずな(1丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と話し合い、納得を得て大きいお金は事務所に預けている。ご本人の希望や力に合わせて小銭から数千円は所持していただいております、買い物などに使われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話を取り次いだり、依頼を受けて職員がかけたりしている。手紙を預かって出すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の意見を聞きながら行事や季節感を取り入れた飾り付けを行ない、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	居間には行事の写真や季節の飾り付けがあり、暖かみのある居心地よい空間となっている。廊下には昭和30年～40年代の長崎市内の写真や書が飾っており、利用者の思い出を引き出したり会話のきっかけに役立っている。毎朝職員が清掃を行っており、感染症予防の為手摺等は拭掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外の場所にもソファや椅子を置いて、憩える場所を作っている。気候のいい時には、屋上ベランダでゆっくり過ごせるように、ベンチを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者が、思い思いに家具や馴染みのあるもの、好みのものを持ち込まれている。時には、ご家族と相談しながら、模様替えなどの支援も行なっている。	持ち込むものに制限は設けていない。利用者が使い慣れた物が持ち込まれ、ベッドやソファ等の配置は利用者の体の状態に合わせて、本人・家族とも相談して決めている。趣味の書や家族の写真・ぬいぐるみ等好みに応じた飾り付けが行われており、ホッとできる場所となっている。清掃は毎朝職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は、車椅子でも十分移動できる広さがあり、廊下や浴室・トイレには、手すりが設置されている。状態の変化に沿って、更に工夫したり検討すべき点もある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105051		
法人名	医療法人博和会		
事業所名	グループホームすずな		
所在地	長崎市愛宕4丁目11番1号		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人の母体である病院が隣接していることにより、医療面の協力体制が整っています。併設施設の管理栄養士や理学療法士など他職種との専門職の協力のもと、栄養面や生活リハビリなど、利用者の状態の変化に沿って、相談したり支援することができます。また、繁華街に近い為、利用者の要望に沿って、個別の外出支援を行ったり、地域の方の協力を得、屋上ベランダで季節を楽しみながら園芸活動などを行なっています。その他、地域のグループホームと花火大会やおやつバイキングなどの相互訪問を行ったり、自治会の方々と一緒に秋祭りや忘年会など

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は職員皆でつくり、理念に沿って、地域の中でその人らしい生活を支えるという観点から、地域の方たちとの交流を進めている。今年度は地域の他のグループホームとの交流の機会を増やし、今後についても話し合っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くスーパー等へ一緒に買い物に行っている。その他、婦人部の活動に参加したり、ベランダの植え替えに協力をいただいたりしている。秋祭りには、ポスターやチラシの呼び掛けにより、多くの地域住民に参加していただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で話し合ったり、包括支援センターより依頼を受け、認知症サポートの養成講座の一環として施設見学をしてもらったりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回活動報告を行い、サービスの現状について地域の方やご家族の意見を伺ったりしてサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席や行事への参加等の協力をいただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内研修を行なっている。職員は身体拘束の弊害を理解しており、日頃から利用者の状態把握に努め、気持ちに沿ったケアを心掛けている。エレベーターは自由に乗降出来、玄関も日中施錠していない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行なっている。ユニット会議で日頃の気付きを話あったり、他施設での虐待についての話を聞いたときに、自分たちの施設の振り返りを行い、防止に務めている		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を基に施設内研修で学ぶ機会を設けている。必要に応じて関係者と話し合い、支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明を行い。理解していただけるように務めている。利用者、ご家族の不安に配慮し、疑問点が浮上した場合には、いつでも説明を行う旨伝えている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付に意見箱を設けているが、今まで一度も意見が入ったことがない。ご家族から直接口頭で意見を聞くことはあり、話し合いを持って、誠意のある対応が出来るように務めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内に気付き箱を設け、毎月のユニット会議で意見を出し合っている。また、職員アンケートを基に面談を行ない、意見や提案を聞きながら、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行ない、その実力に沿って、介護職員処遇改善給付金に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、施設内研修にて職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等にて、他の事業所と交流を図り、相互訪問、勉強会などの活動を通じて、取り組みをしている。		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会って、できる限り話を効く機会を作り、信頼が得られるように務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの話を出来る限り聴き、困っていることや要望等受け止め、信頼していただけるように務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他施設への申し込み方法や他のグループホームの空き状況の情報や料金等の説明を行ない、他のサービスを含めた選択肢が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや洗濯物タタミ等一緒に行なっている。会話の時間を大切に色々教えてもらうこと多く、日々楽しく過ごすように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日頃の様子や変化等出来るだけ詳しく伝えるようにしている。協力をお願いしたりと一緒にご本人を支えていく関係を築けるように努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別の情報を基に支援出来るように努めている。友人・知人の面会・電話等もある。外出も家族の協力を得たり連携を図っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行える作業やレクレーションを行ない、職員が間に入り交流がもてるように支援し、利用者同士の訪問や会話の見守り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った後の様子をご家族に聞いたり、本人が来たりして話を聞いている。時々、家族からの電話相談もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞きながら出来るだけ一人、一人の希望や意向の把握が出来るように努めている。困難な場合は表情や反応を観察し推測し家族から話しを伺ったりしている。職員間での情報の共有が出来るように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に話しを聞いたり、家族からも話しを聞いたりして情報を共有出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りを詳しく行ない、申し送りノートを活用し現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めアセスメントを行ない、毎月のカンファレンスで話し合い介護計画反映している。担当者以外にも気づきがあれば意見を出し合い、具体的なケア内容に繋げている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録しようにケース記録に計画書を見やすく綴じ、毎日の記録をおこなっているが実践状況が分かりにくい事もある。また、経験の差もあり職員によって差があり計画の見直しにて不十分さもある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話を聞きながら、出来る限り要望に沿った柔軟対応ができるように努めている。色々な意見を出し合いその時のニーズ対応出来るように取り組んでいる		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	屋上ベランダの季節の植え自治会の方の協力をいただいている。地域のもやい船お花作りには利用者の方も毎年参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望に沿って出来るだけ係りつけ医の継続を支援している。家族付き添い困難時は職員が付き添い主治医へ情報提供し受診結果を家族に報告している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護師や毎日の当直看護師に情報を伝えて相談したり、受診の指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は病棟看護師やソーシャルワーカー等に情報を伝えたり、退院に向けての情報交換や主治医への相談を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針についてはご家族全てに説明し同意を得ている。個別のケースごとに事業者出来る事の説明を行ない連携看護師を交えて家族と話し合っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は順次消防の救急救命の研修を受けている連携看護師が講師となり定期的に施設内研修を行い、実践に備えられよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災時の避難訓練行なっている。地域の方も参加してもらって協力体制があり、災害時の避難場所として施設4階を地域住民の避難場所として提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや口調には気を配って対応している。職員間での情報を共有すると共に内緒してほしい気持ちやプライバシーには十分に配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を必ず聞くようにしている。出来るだけどうするか？の形で聞くようにしている。自己決定の困難な方に関しては体調や表情見ながら働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人、一人のペースを大事にケアを行っているが希望に沿えない場合もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に化粧水・衣類を預かり金より購入したり、外出時等の時衣類の相談にのったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士や厨房の協力の基個別に好みや状態合わせた食事を提供している。食事の準備や片付け利用者の状態変化もあり職員が行う事が多いが簡単な盛り付け等出来る方に本人の調子が良い時に手伝いしてもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を提供し食事・水分量記録している。個別に医師・栄養士・家族に相談しながら本人に合わせた食事の提供及び栄養補助食品等の提供をおこなっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けや見守り、出来ない方へは介助しケアを行なっている。義歯は洗浄剤使用し個別に歯科にも相談している		



グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄介助行なっている。訴えがない方に関してはタイミングを見計らって実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談し個別に薬の処方依頼する共に水分量も注意し個別に食物繊維の多いジュース等を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調等に留意しながら、本人の希望に沿って行なっているが、職員不在時等安全を考慮し出来てないときもある。拒否の多い方に関して声掛けを工夫しながら本人の意思を確認している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体の負担や生活のリズム考慮して居室のベット臥床やソファーにて下肢挙上している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書ケース記録にファイルし確認・把握出来るようしている。症状の変化他科受診の際も主治医に報告し対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話・塗り絵等の個々の好まれる事や楽しみ等について職員間にて情報を共有し、その時必要な支援が出来るように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った支援が出来るように努めているが、希望に添えない事もある。ご家族へも協力の支援を依頼している		

グループホームすずな(2丁目)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族や本人と話し合い多額の金銭に関しては事務所預かりし、ご本人の希望や能力にて小銭や数千円は所持しており、買い物等にて使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話の取次ぎ、依頼を受け職員がかけたり、利用者本人かける場合施設の電話を貸している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や季節感を取り入れた飾りつけ及び余暇の時間に行なっている塗り絵やペン習字等の作品も掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外の場所にもソファや椅子を置いている。気候の良い日はベランダで過ごせるようにベンチも置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の利用者が馴染みのある家具・好みの物を持ち込んでいる。状態によりご本人やご家族と相談しながら模様替えの支援行なっている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内車椅子でも十分移動できる広さがあり、廊下・浴室・トイレ手すりがあり、状態の変化により更に工夫の検討の必要性があり		